

【編集後記】

本号は、小川研究室所属の 2009 年度修士課程修了生 3 名と 2010 年度修士課程修了生 1 名の論文・調査報告を掲載している。

藤井論文は提出した修士論文で整理した課題意識をベースに、その後、更に考察を進めて自分の教員評価の在り方に関する仮説的提示を試みた論考である。鈴木論文は、修士論文をベースに論点と内容を整理し一部書き直した論文である。近年、学校建築の分野で再び教科教室型校舎が脚光を浴びるようになってきているようであるが、高校教諭として勤務校の教科教室型校舎建築に直接関係した課題意識を大切に論考は教科教室型校舎の課題を考える上で示唆に富む。鵜田の調査報告も、修士論文をベースにその内容を NCLB 法に焦点を絞り、アメリカ調査で入手できた資料・データをもとに整理したものである。市川の調査報告は、2010 年度修士論文で扱った群馬県公立学校長・教員を対象にした教員評価に関するアンケート調査であるが、こうした全県規模で校長と教員の双方を対象にしたアンケート調査は貴重であるため基礎的データとして掲載した。このアンケート調査結果の分析をベースにした論文は次号に掲載予定である。

次号は、2010 年度修士課程修了者の修士論文を中心に修了生や在籍者の論考・調査報告を掲載する予定である。なお、本号の編集作業は、2009 年度修了生の藤井幹夫さんが行った。

(小川正人)